



民俗行事「庚申待ち」を今に伝える

9月30日(土)、河原歴史民俗資料館で「庚申待ち」が開催されました。庚申かのえのさるの日の夜は一睡もしないという民俗行事「庚申待ち」を今に伝えるこの行事に、河原地域の児童や保護者など28人が参加。河原町民俗行事を語る会の蓮佛金吾れんぶつきんご会長から、行事の由来について説明を受けました。また、会員の「子どもの頃『庚申待ち』の夜は眠らずに夜通し話をして、気がつくとも朝日が昇り始めて一番鶏が鳴いた」といった話に、集まった子どもたちは驚きの声をあげていました。その後、参加者全員でおはぎを食べ、伝統行事を楽しみました。

湖山町西二丁目

エコとアートとの融合

湖山池北岸のグリーンフィールドにある色鮮やかなトイレをご覧になりましたか。このトイレは、今年の2月に完成した排水を外部に全く出さない環境に配慮した市内初の循環式トイレで、グリーンフィールドとともに地域住民の手により管理されているものです。このたび、鳥取大学美術部の学生と湖山西小学校の児童の手により、鮮やかな絵の描かれたオブジェとして生まれ変わりました。だれでも気軽に利用できる緑豊かな広場、グリーンフィールドにお出かけの際は、目を楽しませてくれるものと思います。



気高町浜村温泉街

けた 気多の市は今年も盛況

10月8日(日)、気高町浜村温泉街で、今年で27回目となる恒例のふるさと産業まつり「気多の市」が開催され、約4000人が詰めかけました。これは、住民の交流と地域の活性化を目的とした住民参加型の祭りです。露店、射的などのゲームコーナーが立ち並ぶほか、フリーマーケットも開かれました。今年は「エコロジーを祭りで楽しもう」をテーマに、環境に関するイベントも数多く開催。訪れた人は、人力車が威勢よく駆け抜ける昔ながらの街道をのんびりと歩き、店々から掛かる大きな掛け声に足を止め、好みの品を買い求めていました。



宮下地区公民館

万葉の地で熱い戦い

青谷上寺地遺跡公園

弥生時代の稲刈りを体験

10月3日(火)、青谷小学校と日置小学校の5年生31人が、青谷上寺地遺跡公園内の田んぼで稲刈り体験を行いました。児童たちは、6月に植え、たわわに実ったモチ稲を慣れない手つきでノコ鎌を使いながら刈り取り、その速さを競い合っていました。刈り取った稲を麻ひもで束ねる作業には苦勞していました。また、弥生時代の農業体験として、石庖丁を使って稲穂を刈り取る作業も体験。児童たちは「意外によく切れる」と驚いていました。



9月24日(日)、宮下地区公民館で、全日本かるた協会中国支部主催による「シニアかるた大会」が開催されました。これは、50歳以上の百



一人一首かるた愛好家が「競技かるた」の腕を競う大会で、遠くカナダから参加した日本人女性も含め、26人が腕を競いました。会場では、全日本かるた協会公認読手が歌を読み上げるたびに、畳を叩く音と歓声があがっていました。今大会は、来年県内で開催される「全国かるた競技鳥取大会」のプレ大会でもあり、県かるた協会会長の原田純一はらだじゅんいちさんは、「万葉集ゆかりの地である鳥取市国府町で、ぜひ、かるたの全国大会を開きたい」と意気込みを語っていました。